

# Dear地球民

第7号

1991年11月発行

編集発行 ゆがわら国際交流協会

☎259-03 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1

湯河原町商工会内 ☎0465-63-0111



## 第6回 やっさ国際交流

みなさまの暖かいご支援を得て、夏の「やっさ国際交流」プログラムも今年で6回目を迎えました。7月28日昼過ぎ、期待と不安の面持ちで湯河原駅に降り立ったのは、21人の海外の青年たち。ホストファミリーの掲げる手づくりのプラカードに自分の名前を見つけて、みるみる笑顔に。駅頭でのこの対面は、本当に感動的です。開講式が行われる商工会館への道では、大荷物を抱えて、早くもジェスチャー混じりの会話、8日間のホームステイのスタートです。忘れられない、暑い日曜日の午後となりました。

今年来湯したのは、(社)日本ブラジル交流協会派遣のブラジル人研修生9名と、東京の日本語学校で学ぶ台湾、中国、韓国、インドネシア、マレーシアの若者たち。それぞれ湯河原の家庭に滞在して、日本の生活習慣、家族のあり方を見る機会を得ました。「日本語も英語もあまり通じず、苦勞しました。」というご家庭も、中にはあったようですが、肝心の『心』の交流は、うまくいったようです。



ようこそ湯河原へ！感激の対面





やっさパレードの『地球民連』  
ご声援ありがとうございました。

湯河原一番のイベント”やっさ祭り”。ホストファミリーと留学生は、8月2日夜、恒例のやっさパレードに『地球民連』として参加しました。女子学生は、ホストのお母さんに「ゆかた」を着せてもらい、男子はそろいのハッピーに鉢巻き姿。アレアレ、どこかで見た顔！そう、中には去年、おとしホームステイした学生さんの顔も。みなさん、この日だけはと、湯河原の家族の元へ駆けつけたのです。うれしい再会も手伝って、例年になく賑やかになった今年の”やっさ”。踊りも一生懸命練習しました。いかがでしたか？



- 7/28(日) 開講式、歓迎会  
 29(月) 生活交流(夜)ボーリング大会  
 30(火) 町内バス見学  
     日本ジャンボ本社工場~  
     万葉公園、こごめの湯~  
     東台福浦小学校  
 31(水)、8/1(木) 生活交流  
 8/ 2(金) やっさパレード参加  
 3(土) 生活交流  
 4(日) 終了式、お別れ会



はい、ポーズ。日本ジャンボ本社前で

お互いの国を知るの、まづ一人の友人を持つこと  
 また会う日まで 1991.7.28~8.4

水谷隆信(宮上) 許文亭(台湾)	赤岩州五(吉浜) スエリー A. オーシロ (ブラジル)	棚橋芳夫(鍛冶屋) ホゼネーデ A. フェレイラ (ブラジル)
高橋利子(土肥) フェルナンド D.S.R. マシャード (ブラジル)	川端聖子(吉浜) 長野幸代(土肥) ラティ ダニスウォロ (インドネシア)	二見守彦(宮上) エドワード N. ワタナベ (ブラジル)
加藤力蔵(福浦) 林幸儀(台湾)	磯崎正樹(宮上) オマール N. オキノ (ブラジル)	杉本暢子(熱海市泉) 李文珊(台湾)
足利裕之(吉浜) リカルド スズキ (ブラジル)	竹林徹雄(福浦) 頼慧真(台湾)	内藤婦美子(土肥) 呉金蘭(台湾)
杉山茂久(宮上) フェルナンド M.V.L. サンパイオ (ブラジル)	伊藤奈及美(土肥) 金井文江(吉浜) トレーシー 曾菊芬 (マレーシア)	高橋賢次(土肥) 陶碧秀(中国)
柏木光之(鍛冶屋) 林志遠(台湾)	岩本賢一(吉浜) 安貞熙(韓国)	金子信一(城堀) ニルトン N. フィーリョ (ブラジル)
高橋一子(吉浜) 催暁倩(台湾)	高橋富江(土肥) 林婉慧(台湾)	鳥光弘孝(土肥) アニーバル M.P. ダ・シルバ (ブラジル)

好評！外国語講座

英語... 南スージー先生(ソガポールご出身、城堀在住)  
 前期6月、後期9月より毎週火曜日各10回  
 中国語... 露木裕子先生(真鶴在住)  
 前期6月、後期10月より毎週木曜日各10回  
 今年度はのべ54名が受講、楽しく熱の入った授業です。

募金ご協力ありがとうございました。  
 皆様の善意は下記のとおり送金させていただきました。  
 ♥クルド難民救済(5/19産業祭、5/27通常総会)  
     ¥47,676 神奈川県民湾岸募金へ  
 ♥雲仙見舞い金(7/20ジャズサミット)  
     ¥60,000 湯河原社会福祉協会へ



私のセンチメンタル、ジャーニー

シスコに着いて、ジェット・ラグ（時差ボケ）が完全に回復するのに、3日もかかって、しまった。私には初めての体験だったが、娘に言わせると、日本からアメリカに飛ぶ時の方がひどいらしい。これも一つの体験だが、月に何回かアメリカを往復しているビジネスマンたちはどうなっているのだろう。そのタフさ加減は尊敬に値する。

ALCATRAZ島と聞くとすぐに名前が浮かぶ人は、かなりのアメリカ通だと思う。シカゴの有名なギャングの親分アルカポネが収容されていた監獄島といえば誰でも知っているが、そこへ案内された。

寒々とした監獄の様子は想像を上回るものがあったが、ここで面白い話題があったので、紹介したい。

当時(1920年代)のアメリカは禁酒法が施行されていて、ウイスキーの密輸で巨利を得るアルカポネ一味に敢然と体を張って対決したのが、エリオット・ネスを長とする財務省の特別捜査官の9人、アンタッチャブルという有名な映画にもなった、日本でいう大蔵省の役人が命をかけて脱税行為を摘発し、最後にこれら勇気あるグループに逮捕され、この島送りになった。日本の役人と比較するのは失礼だが、ここにも悪への取り組みの日米の差がはっきりと出ている。

収容中に彼のお母さんがイタリアのシシリー島から面会に来た。彼女にすれば凶悪犯人であれ、愛する息子と話をしたくて、わざわざ来たのに、面会室では英語以外の言葉は許されない。仕方がないので、お母さんは分厚いガラス越しに、泣きながらただ息子につぶやき、ほほをなぞるばかりだったと言う悲しい話を聞いた。

隅の方で人だかりがしているので、そっと見たら、年老いた白人が何か話をしており、本にサインをして売っているので事情を聞いたら、彼はかつてこの島に収容されていた人で、その体験記を本にして、どうどうと販売していたのだ。

ちょっと日本人には理解できない話ではないだろうか。

この島はかつてスペインの侵略を恐れて、要塞の旧式の大砲が設置されたままになっていた。アメリカもかつては弱い国であったそうで、今では考えられない時代があったらしい。

サンフランシスコの対岸の灯が見えるので（距離は忘れまじ）望郷の念にかられて、脱獄を試みた人もいたらしいが、成功したものはいないらしい。

この島が余りにも維持費がかかるので、ケネディ大統領の時に廃止になり、その後インディアンの原住民が一時占領し、自分たちのものだと言ったこともあったらしいが、今がナショナル・パーク・サービスつまりゴールデン・ゲート・国立公園の管轄下で一般観光客の観光ルートの一つとして名物コースになっている。

フェリーボートの売店に面白い公告があった。スナックはここだけだよ、島にはプリゾナ（囚人）スナックしかないよ、アメリカ人のジョーク好きには笑った。

（次回へ）

— 石井 宏樹 —